

項目	具 体 策	28年度事業計画 重点取組事項	28年度 取組実績	28年度 評価	29年度事業計画 重点取組事項	29年度 計画	30年度 計画	31年度 計画	32年度 計画
I 府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します									
1 府内の各図書館とのネットワークの強化	(1) 総合目録ネットワークシステム(K-Libnet)の確実な運用と加盟機関の拡大	・大学との連携強化や府立学校への支援策を拡充し、加盟機関を拡大する。	・大学図書館の所蔵データを管理するシステムとK-Libnetシステムとの連携にかかる実証実験を12～1月に実施。 ・府立学校の学校支援セット等の申込みを迅速に行うため、K-Libnetシステムを改修し、12月からテスト運用を開始。29年4月1日付けで規程を改正し、加盟館を拡大。<K-Libnet加盟機関:30機関→80機関(H29.4)>	◎		□	□	□	■
	(2) 府内各大学との相互貸借の促進	・大学と連携して相互貸借の利便性を高め、より効率的に資料を府内全域で共有できるよう工夫する。	・京都大学附属図書館と相互貸借の試行を7月から開始。<京大図書館との相互貸借利用冊数:39冊> ・29年度から京都教育大学附属図書館、福知山公立大学メディアセンター、佛教大学図書館の所蔵資料の相互貸借を実施するため調整を実施。 京都教育大学附属図書館とは、3月に協定を締結。	◎	・大学と連携して相互貸借の利便性を高め、より効率的に資料を府内全域で共有<2大学図書館⇒7大学図書館に拡大>	■	■	■	■
	(3) 共同研究等を通じたシステム改善と利便性の向上	・斬新な図書館サービスを展開する企業と連携協定を締結し、新たな市町村支援策を探る。	・カーリル社と、公立図書館として初めて「連携・協力に関する協定」を締結。 ・検索精度の向上を目指して、府立図書館及び国立国会図書館、同志社大学、筑波大学、千葉大学、カーリル社との産官学連携プロジェクトを11月に立ち上げ。機械的に突合できない部分は、「クラウドソーシング」として、図書館やシステムに関心のある方の協力により判定(28年度末までに、8,200組のデータセットについて、70,625回の判定。)	◎	・産官学連携による書誌情報研究プロジェクトを推進し、「京都府図書館総合目録」の検索精度の向上を目指して継続的に実施	■	■	□	■
	(4) 府内の図書館との物流改善	・大学と連携して相互貸借の利便性を高め、より効率的に資料を府内全域で共有できるよう工夫する。	・京都大学附属図書館との相互貸借の試行を7月から開始。<京大図書館との相互貸借利用冊数:39冊> ・29年度から京都教育大学附属図書館、福知山公立大学メディアセンター、佛教大学図書館の所蔵資料の相互貸借を実施するため調整を実施。 京都教育大学附属図書館とは、3月に協定を締結。 ・連絡協力車について、29年度から市町村立図書館等への運行回数を増強するべく調整を実施。<連絡協力車市町村運行回数:週1回→週2回>	◎	・相互貸借のための連絡協力車の市町村巡回を週2回に倍増	■	□	□	□
	(5) 職員の府内各機関巡回の維持・拡充	・市町村立図書館等への訪問方法を工夫し、より丁寧な意見交換をおこない、次年度の施策へ生かす。	・市町村図書館等への職員巡回について、各館の意見や希望を聞きながら訪問方法を検討。	○	・市町村立図書館等への職員巡回の人数を拡充。<訪問人数:1人⇒3人に増員>	■	□	□	□
2 市町村立図書館等への支援	(6) 市町村立図書館支援のための資料の充実		・市町村図書館のニーズを聞きながら、貸出文庫用資料を7,551冊受入。総計123,081冊。	4		□	□	□	□
	(7) 図書館運営にかかる情報の積極的な収集と提供		・はじめての府内図書館館長会議を28年12月に開催。 ・府内図書館を6回のべ30名の職員が訪問。	4	・図書館運営に関する情報の積極的な収集と提供を展開。<訪問人数:1人⇒3人に増員>	■	□	□	□
	(8) 市町村立図書館職員等へのより充実した研修の実施		・分野のバランスを配慮した6回の研修を実施。	3		□	□	□	□
	(9) 市町村立図書館のレファレンス機能充実への支援強化		・市町村・府立学校からの62件の調査相談に対応。	3		□	□	□	□
	(10) 各機関で協働した展示・イベントの開催		・他の市町村支援に注力したため、連携展示やイベントは未実施。	1		□	□	□	□
3 学校支援の充実	(11) 児童・生徒の調べ学習や学生の調査研究の積極的な受け入れ		・小・中・高・専門学校・大学まで、総計で18回482名を受入れ。 ・府立高校の活動紹介・作品展示を当館エントランスで実施。	5		□	□	□	□
	(12) 学校図書館運営のための支援の充実		・学校司書勉強会や総合教育センターの研修を各1回受入れ。	4		□	□	□	□
	(13) 学校支援セット等の資料の充実と提供方法等の改善		・高校版:145テーマ、小中学校版82テーマを整備。最新の情報で学べるよう、既セットについても大幅に資料を更新し、17,505冊を貸出。 ・府立学校の学校支援セット等の申込みの利便性向上のため、K-Libnetシステムを改修し、12月からテスト運用を開始。29年4月1日付けで規程を改正し、加盟館を拡大。<K-Libnet加盟機関:30機関→80機関(H29.4)>	5		□	□	□	■
	(14) 特別支援学校への資料や情報提供などの支援強化		・特別支援学校校長会にてヒアリングを実施。 ・特別支援学校教員を対象とした活用講座を実施(参加9名)。	4	・見えにくい方を対象とした「拡大読書器やルーベの使い方講座」や個別相談会を開催	■	□	□	□
4 子ども読書活動の支援	(15) 児童サービス等に関する情報の集積と発信		・児童サービスに関する情報収集のみ実施。	1		-	-	□	■
	(16) 子ども読書のしおりコンテスト等の事業推進		・子ども読書のしおりコンテストを推進。応募総数8,718件。 ・府内図書館・読書施設等で本のしおりコンテストの巡回展示を実施。(28年11月から29年10月まで)	4		□	□	□	■
	(17) 子ども読書活動に関するワークショップ等の実施		・子ども読書活動に関する情報収集のみ実施。	1		-	-	□	■
	(18) 多様な講師を招聘した研修の実施		・市町村向けに児童サービスに関する研修を2回実施(参加39名)。	3		□	□	□	□

〈サービス計画におけるIの主な評価指標〉

項目	26年度実績	27年度実績	28年度実績	数値指標
総合目録ネットワークシステム加盟機関 (府内全市町村・府立機関・大学など)	30 機関	30 機関	30 機関	80 機関
年間貸出冊数 (個人貸出・学校支援セット貸出・機関貸出)	247,284 冊	243,964 冊	245,895 冊	270,000 冊
年間の市町村立図書館職員等への研修回数	12 回	8 回	6 回	15 回

凡 例

○平成 28 年度評価では、すでに図書館評価として報告している重点取組事項については、◎が目標達成、○が概ね達成、×が未達成と表記した。それ以外の項目については、別紙のループリックの考え方にもとづき、5 から 1 の評点を表記した。  
○平成 29 年度から 32 年度までの計画では、■が重点、□が実施、-が未着手、と表記した。

項目	具体策	28年度事業計画 重点取組事項	28年度 取組実績	28年度 評価	29年度事業計画 重点取組事項	29年度 計画	30年度 計画	31年度 計画	32年度 計画
II 多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます									
5	多様な資料の収集・整理・提供	(19) 収集方針にそった多様な形態の資料の積極的な収集	・資料収集基準を改訂。図書21,374冊、逐次刊行物 388タイトルを収集。	4		□	□	□	□
		(20) 目録・検索機能の向上	・逐次刊行物の巻号登録開始により、府民に充実した目録情報を提供する。	○		□	□	□	■
		(21) 限られた開架スペースへの配架の工夫	・1階開架の京都コーナーを再編成。	4		□	□	□	□
6	十分な収蔵空間の確保による資料の的確な保存	(22) 保存センターの役目を担う図書館としての収蔵量の確保	・用地確保に向け検討。	2		□	■	■	■
		(23) 資料の適切な保存と書庫環境の改善	・書庫内のカビ・埃の状況について調査を実施(結果は良好。)	4		□	□	□	■
		(24) 府内1冊所蔵図書の的確な把握・移管	・市町村立図書館と調整し56冊を受入れ。	3		□	□	□	□
7	資料館・博物館・大学等と連携した文化資源の情報発信	(25) 府立総合資料館との連携の強化	・資料館の移転のため、特段の働きかけを行わず。	2		□	□	□	□
		(26) 博物館等の関連施設との連携の強化	・京都大学附属花山天文台と連携して4次元デジタル宇宙シアターを3日6回開催し、合計270名が参加。 ・京都シネマの企画関連資料リストを作成し京都シネマで配布。	5	・京都大学総合博物館企画展との連携(パネル展示、関連図書展示、関連図書リスト配布、総合博物館への図書貸出等)	■	■	□	□
		(27) 大学等との連携の強化	・京都大学附属図書館と連携の調整を継続。 ・府内各大学との繋がりを活かした連続講座を実施。 ・K-Libネットの充実をはかる産官学連携プロジェクトにおいても、同志社大学・筑波大学・千葉大学と連携して着手。 ・京都府立医科大学附属図書館企画展示への資料提供。	5		□	■	■	□
		(28) 近隣文化施設との連携の強化	・隣接する京都国立近代美術館とともにWikipediaの記事を編集する取組に協力し、イベントのテーマに沿った当館所蔵資料を提供するなど、近隣施設と連携して文化資源を情報発信する。 ・立地する岡崎地域で実施される様々なイベントに積極的に参画し、独自事業を企画するなど、相乗効果による当館の魅力増進を図る。	◎	・「京都岡崎魅力づくり推進協議会」等の行う企画に積極的に参画(「京の七夕 岡崎プロムナード」「岡崎ときあかり」等) ・細見美術館をはじめ近隣の文化施設と連携した府立図書館内での展示や講演会・ワークショップの開催	■	■	■	■
(29) 府内各大学との相互貸借の促進(2再掲)	・大学と連携して相互貸借の利便性を高め、より効率的に資料を府内全域で共有できるよう工夫する。	・京都大学附属図書館と相互貸借の試行を7月から開始。<京大図書館との相互貸借利用冊数:39冊> ・29年度から京都教育大学附属図書館、福知山公立大学メディアセンター、佛教大学図書館の所蔵資料の相互貸借を実施するため調整を実施。 京都教育大学附属図書館とは、3月に協定を締結。	◎	・大学と連携して相互貸借の利便性を高め、より効率的に資料を府内全域で共有<2大学図書館⇒7大学図書館に拡大>	■	■	■	■	
8	電子図書館サービス・デジタルアーカイブなどへの展開	(30) 国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の充実	・市町村図書館職員向けレファレンス講習のなかで、「デジタル化資料送信サービス」について紹介(2回37名参加)。	4	・国立国会図書館デジタルコレクションの活用法の案内やワークショップの開催による図書館資料活用の促進	■	■	□	□
		(31) 利便性の高い各種データベースの提供の促進	・データベースを紹介する活用講座を5回実施し、57名が参加。	4		□	□	□	□
		(32) 電子書籍の動向を踏まえた導入	・電子書籍の動向について情報収集したが、導入に足るサービスを見い出せず。	2		-	-	□	□
		(33) 価値ある資料のデジタルアーカイブ化と発信	・研究者との協働作業により貴重書庫内の洋書を調査するとともに、府民への提供を見据えたデジタルアーカイブ化の準備を行う。	○	・府立大学等との連携により貴重書庫内の100年前の洋書群を調査し、府民の財産としてオープンデータ化を推進	■	■	■	□

〈サービス計画におけるIIの主な評価指標〉

項目	26年度実績	27年度実績	28年度実績	数値指標
年間の資料収集点数 (図書・逐次刊行物・ マルチメディア・電子資料等)	収集図書 21,518冊 逐次刊行物 400点	収集図書 21,024冊 逐次刊行物 398点	収集図書 21,374冊 逐次刊行物 388点	20,000点
年間の展示回数 (図書資料展示・企画展示)	34回	37回	45回	40回
年間の来館者数	284,080人 平成25年度実績 (26年度は機器故障)	287,026人	288,424人	300,000人
年間のデータベース利用者数 (新聞・論文・国会図書館のデータベースなど)	2,504人	2,689人	3,487人	3,000人

項目	具体策	28年度事業計画 重点取組事項	28年度 取組実績	28年度 評価	29年度事業計画 重点取組事項	29年度 計画	30年度 計画	31年度 計画	32年度 計画
II 多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます									
9 所蔵資料紹介・レファレンス業務の充実	(34) 職員のレファレンス能力の向上		・市町村向けレファレンス講座を2回実施し、館職員も参加。 ・国会図書館のレファレンス研修に参加。 ・レファレンスツールの館内学習会を定期的実施。	3	・国立国会図書館レファレンス協同データベースを活用 ・職員のレファレンス能力・資質向上のために登録数の増加と共有 <年間登録目標数:100件>	■	□	□	□
	(35) レファレンスサービスの周知と利用促進		・ラジオ等での広報機会にレファレンス機能について周知。	4		□	□	□	□
	(36) レファレンス協同データベースへの積極的な登録		・データ遊及入力キャンペーンに応募するとともに、平成29年2月から積極的登録を開始(公開への切り替えは精査後。)	3		□	□	□	□
	(37) 多様な本や情報に出会える館内展示の展開		・講座などのイベント時を含め、独自企画や講座内容に連動した45回の館内展示を実施。	5		□	□	□	□
	(38) テーマ別資料リストや調べ方案内の充実とオープンデータでの公開	・テーマ別視聴覚リスト及びデータベースの使い方案内等を充実し、ホームページ上でオープンデータとして公開する。	・「図書館活用チーム」により、図書館の基本的な使い方等詳しく説明する「図書館利用ガイド」7種類を大幅に見直し、ホームページに掲載、エントランスでも配付。 ・図書館活用チームでは、「図書館活用講座」を年間10回開催。	○	・テーマ別資料リスト等の作成及びオープンデータでの公開	■	□	□	□
10 来館者への貸出サービス等の充実	(39) 貸出・返却時の利便性改善		・京都市との間で、28年9月から相互返却にかかる調整を開始。	3	・京都市図書館との相互返却(府立図書館の本を京都市図書館に返却可、京都市図書館の本を府立図書館に返却可)を試行的に実施	■	■	■	■
	(40) カウンターサービスのより一層の向上		・サービスの水準維持とカウンター周辺的美観向上に努めたが、新たなサービスの導入等は未実施。	3		□	□	□	□
11 非来館サービスの充実	(41) 各種の非来館サービスの周知と利用促進		・新聞・テレビ・ラジオ・その他媒体などへの広報機会に積極的にサービス内容を周知。	4	・京都府インターネット放送局「生涯学習講座」の中で、「図書館活用講座」の動画を公開し活用を促進	■	■	□	□
	(42) ホームページに掲載する情報の充実		・来館せずとも当館の様子を知っていただけるよう、企画・受入資料などを中心に、お知らせ欄を年間137回更新。	5		□	□	□	□
12 障害者サービス等の拡充	(43) 大活字本やデジター・マルチメディアデジター図書などの充実		・大活字本・デジター図書合計312点を収集。	4		□	□	□	□
	(44) 障害者差別解消法に基づく各種ガイドラインへの適切な対応		・29年2月にOPACを改修し、色弱者により見やすいよう対応。	4		□	■	□	□
	(45) 特別支援学校への資料や情報提供などの支援強化(14再掲)		・特別支援学校校長会にてヒアリングを実施。 ・特別支援学校教員を対象とした活用講座を実施(参加9名)。	4	・見えにくい方を対象とした「拡大読書器やルーペの使い方講座」や個別相談会を開催	■	□	□	□
13 「歴史ある府立図書館」の演出	(46) 鳳凰図(集書院天井画)の活用促進		・明治初期の府立図書館の歴史について情報収集のみを実施。	1		-	-	□	■
	(47) 旧館家具・建設具材等を活用した空間演出		・府立図書館旧館建築について情報収集のみを実施。	1	・建築史を専門とする講師による府立図書館建物や調度品の解説などの講座を開催し、職員による定期開催の館内見学会に還元	■	□	□	■
	(48) 府立総合資料館との連携による古典籍の複製等の展示		・府立図書館が所蔵していた古典籍について情報収集のみを実施。	1		-	-	□	□
	(49) 吉田初三郎鳥瞰図を活用した京都案内		・吉田初三郎について情報収集のみを実施。	1		-	■	□	□
14 入りやすく利用しやすい空間の構成	(50) 来館者の目的に応じた資料や情報への的確な誘導	・総合案内窓口を設置し、来館者の目的に応じた資料へ誘う。	・総合案内窓口を、試行として6日間設置し、来館者の問合せ等に対応。 ・府立大学との連携により学生と検討した結果、初来館者向けの案内表示の提案を受け、これを参考に3月に案内板を作成、エントランスに設置。 8月11日の「宵の図書館」の際に野外演奏会や七夕企画などを実施。<宵の図書館観客・参加者数:約650名> ・芸術イベント「OKAZAKI LOOPS」に協力し朗読劇を前庭で実施。	○		□	■	■	□
	(51) 岡崎地区での立地を活かした屋外空間の活用			5		□	■	□	□
15 職員の育成	(52) 研修・研究会等への積極的な参加		・文部科学省主催の図書館司書専門講座を含め、8回の研修に11名が延27日参加。 ・近畿公共図書館協議会、図書館総合展、都道府県立図書館サミットなどに講師として参加。	4		□	□	□	□
	(53) 職員の自主研鑽の奨励や活動の紹介		・職員による自主学習グループ「しよまろはん」の活動を支援。	4		□	□	□	□

項目	具体策	28年度事業計画 重点取組事項	28年度 取組実績	28年度 評価	29年度事業計画 重点取組事項	29年度 計画	30年度 計画	31年度 計画	32年度 計画
Ⅲ 議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します									
16 「知的な交流の場」の創設	(54) 2階フロアの改修による議論しやすい「知的な交流の場」の設置		・2階の支援資料室を「知的な交流の場」として活用できるよう、机・椅子・ホワイトボード・プロジェクト等の備品を整備。	5		□	□	■	■
	(55) ファシリテーターとなる職員の育成		・サービスデザインチームによる8回のミーティングを実施。うち、外部講師を1度招聘。	4		□	■	□	□
	(56) フューチャーセンターや発表の場としての機能展開	・外部の機関や団体と連携しながら、アイデアソンなど、様々な交流の場をつくり、フューチャーセンターとしての役割を發揮する。	・情報の拠点としての図書館の強み(豊富な資料・司書の専門性)を活かして、府の企画部門や府民参画部門、公的機関やNPOとの協働事業を実施。 ・府民力推進課との協働によりWS「ナレッジ×DIYシラベル」を開催し、地域力再生活動を行うNPOや個人を支援 ・企画総務課が所管する新規アクションプランの策定に向けた府民参加型アイデアソンへの開催協力 ・オープンデータを推進する各種のイベント<WikipediaTown、WikipediaArts、WikipediaTownSummit2017>への開催協力(WikipediaTown=フィールドワーク後、図書館資料で裏付けをしながら、Wikipediaの記事を編集)等	○		□	■	□	□
	(57) NPO等他の機関や団体との連携による交流企画の推進		・全国各地から関係者が集まった「WikipediaTownSummit2017」をはじめ、開催協力等で10回の企画を実施。	5	・府民の地域力再生活動を支援する事業等を活用したNPOや大学、団体と連携した取組の実施	■	■	□	□
17 府立図書館の見える化の推進	(58) 府立図書館のミッションの周知と事業の効果的な打ち出し		・館内外での研修等での説明機会(主要なもので7回)にミッションや事業について説明を実施。	4		□	□	□	□
	(59) SNS等の多様な広報媒体の活用		・HPお知らせ欄更新137回(企画・海外からの来館者など)の他に、新聞掲載31回(うち日経全面広告1回)、テレビ出演1回、ラジオ出演3回、その他媒体など、報道機関等への露出を増やすよう努力。	4		□	□	□	□
18 各種講座の実施と情報発信	(60) 書籍と情報をめぐる多様な講座の開催	・新設の連続講座など魅力ある講座を府民に提供する。	・京都府教育委員会が培ってきた様々な大学との繋がりを活かし、連続講座として開催<6回開催、469名参加> ・連続講座では、講演のテーマに沿った図書資料を毎回100冊程度司書がセレクトして当日会場で展示、貸出の案内も実施するなど、図書館ならではの強みを活かして展開。 ・落語会を開催し、普段来館されない層に訴求<1回開催、100名参加>	◎	・京都の研究者等を招き、図書資料等と連動させた図書館ならではの府民向け講座を定期的に開催	■	■	□	□
	(61) 研究者・団体等と連携した各種講座の展開	・新設の連続講座など魅力ある講座を府民に提供する。	・京都府教育委員会が培ってきた様々な大学との繋がりを活かし、連続講座として開催<6回開催、469名参加> ・連続講座では、講演のテーマに沿った図書資料を毎回100冊程度司書がセレクトして当日会場で展示、貸出の案内も実施するなど、図書館ならではの強みを活かして展開。 ・落語会を開催し、普段来館されない層に訴求<1回開催、100名参加>	◎	・京都の研究者等を招き、図書資料等と連動させた図書館ならではの府民向け講座を定期的に開催	■	■	□	□
19 行政支援サービスの推進による府民への貢献	(62) 行政機関向けレファレンスサービス・複写サービスの実施	・行政支援サービスの手法の検討及び試行により、次年度からの本格実施を目指す。	・京都府の課や機関の依頼に応じ、レファレンスや資料の配送などの踏み込んだ行政支援サービスを行うことを視野に、連絡協力車の巡回先に京都府庁を加えるなど、本格実施に向けて調整。	×		□	■	□	□
	(63) 府庁への資料配送の実施	・行政支援サービスの手法の検討及び試行により、次年度からの本格実施を目指す。	・京都府の課や機関の依頼に応じ、レファレンスや資料の配送などの踏み込んだ行政支援サービスを行うことを視野に、連絡協力車の巡回先に京都府庁を加えるなど、本格実施に向けて調整。	×	・行政支援サービスとして京都府庁各課からの依頼に応じて図書の貸出を試行的に実施(連絡協力車で配送)	■	■	□	□
20 サービスデザインチームによる新たな取組への挑戦	(64) 外部の力を活用したサービスデザインチームの設置	・実験的なサービスや新しい事業に取り組めるサービスデザインチームを育成する。	・4月に、館の職員によるサービスデザインチームを設置。図書館の新たなサービスにかかる意見交換の場を、ファシリテーター育成も視野に、様々な手法で月1回のペースで実施。 ・「知的な交流の場」の企画を見据えて行うイベントの運営に選書等で協力。 ・府民力推進課所管「NPOパートナーシップセンター」来館者閲覧提供図書の選定及び機関貸出を実施。 ・日本政策金融公庫創業セミナー「京都から始めるあなたの事業～あなたの事業を図書館が応援」の場所を提供し、関連本を選書 等	○	・サービスデザインチームが主体となり、大学生等の意見も活かしながら外部の機関等と連携した新たな取組に挑戦	■	□	□	□

項目	26年度実績	27年度実績	28年度実績	数値指標
年間の講座・講演等 (単独企画・連携企画・館内見学会等を含む)	講演会 4回 活用講座 10回 館内見学会 13回 計 27回	講演会 3回 活用講座 8回 館内見学会 11回 計 22回	講演会 7回 活用講座 10回 館内見学会 12回 計 29回	30回